

子どもたちとまちで会ったときにあいさつできる関係がうれしい

「これまでの活動でうれしかったことは、子どもたちから感謝状をもらったり、手作りのペンダントをプレゼントされたりしたこと。子どもたちの笑顔を見てみると、活動は苦になりませんね」と笑顔で話す『驚別子ども見守りたい』会長の池畠泰彦さん。

『驚別子ども見守りたい』は、平成17年4月、不審者から子どもたちを守るため、住民が自主的に防犯活動に取り組もうと、地域の主婦数人により結成されました。現在は、驚別地区の町内会や民生委員・児童委員、PTAなどから約50人が活動に携わり、小・中学校が休みの日を除く毎日、会員が交替で子どもの見守りや青色回転灯装備車での防犯パトロールを行っています。

「自主防犯活動を目的に始めたわたしたちの活動ですが、知らない人に用心するのが当たり前という雰囲気の中で、活動を通して子どもたちとの間に親近感が生まれ、通学以外でもまちで会ったときにあいさつができる関係を築けたことが何よりうれしいですね」と池畠さんは活動のやりがいを話します。



▲集団下校で子どもたちを先導する『驚別子ども見守りたい』の会員

今後は特に若い皆さんにも活動に参加してほしい

子どもの見守りのほか、道路のごみ拾いや草刈りといった環境美化、高齢者世帯への声掛けを通じた高齢者の孤立化防止、子どもと高齢者の世代間交流などにも取り組む『驚別子ども見守りたい』。

「地味な活動ですが、ここを誰もが安心して暮らすことができる地域にしようという会員の熱い思いが、活動の継続や拡大につながったと思います。最近では、PTA役員の方も加わり頼もしい限りですが、地域の皆さんにわたしたちの活動をもっと知っていただき、今後は特に若い皆さんにも参加してほしいですね」と話す池畠さん。安全・安心なまちづくりのため、今日も街角から地域を見守ります。



KIRARI

いけ はた やす ひこ
池畠泰彦さん(驚別町)

驚別地区で小・中学校周辺のパトロールや高齢者の孤立化防止などの活動を行っている『驚別子ども見守りたい』が、地域の防犯活動の推進に功績のあった個人や団体に贈られる『安全・安心なまちづくり関係功労者表彰(内閣総理大臣表彰)』を受賞しました。

自らも街頭に立ち地域を見守る、会長の池畠泰彦さんに、活動への思いを聞きました。

ここを誰もが安心して暮らすことができる地域にしたい



▲首相官邸で行われた表彰式



昭和5年、三笠市生まれ。80歳。

大学卒業後、道内各地の高等学校で国語の教師として教壇に立つ。現在、登別市老人クラブ連合会や驚別地区連合町内会、ひまわり町内会の各会長も務める。